

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果(中学校:国語)

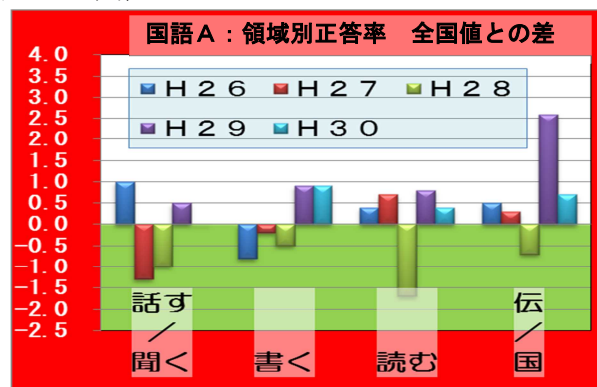
1 結果のポイント

(1) 正答率一覧

領域	平均正答率 (%)					
	中学校：国語 A			中学校：国語 B		
	大分県	全国	差	大分県	全国	差
全体	77	76.1	...	62	61.2	...
話すこと・聞くこと	75.2	75.2	0.0	76.3	76.6	-0.3
書くこと	74.8	73.9	0.9	32.4	31.3	1.1
読むこと	77.1	76.7	0.4	54.1	53.5	0.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.2	76.5	0.7	52.7	49.2	3.5

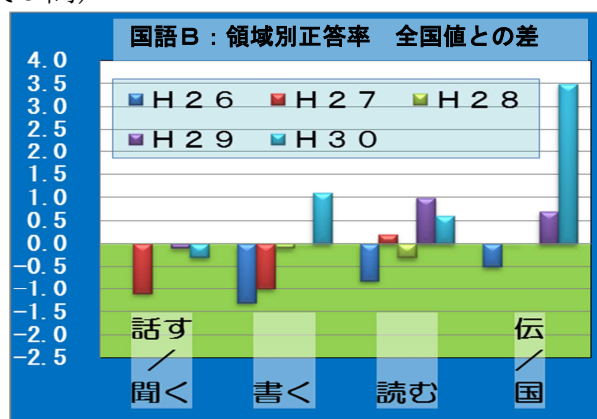
(2) 国語 A の概況：32 問（選択式 21 問・短答式 11 問）

- ①県平均正答率 77%（選択式 77.3%・短答式 75.4%）。全ての領域において、全国値を上回った。ただし、正答率が全国値に達していない問題が 10 問、また正答率が 7 割に達していない問題が 8 問あった。
- ②「慣用句の使用について理解し、条件に即した文を書く」問いの正答率が 20.1% 台であることから習得させる知識に関する指導の工夫が引き続き、課題として挙げられる。



(3) 国語 B の概況：9 問（選択式 6 問・記述式 3 問）

- ①県平均正答率 62%（選択式 66.7%・記述式 51.1%）で、3 領域で、全国値を上回った。
- ②ただし、「話すこと・聞くこと」においては昨年度に引き続き全国値を下回った。また、設問ごとでは、全国値を下回ったものが 3 問、正答率が 5 割を下回った設問が 2 問ある。
- ③特に「文章から必要な情報を探し、それらを要約し理由を書く」問いは 12.0% と低調である。より具体的な評価規準に基づき、適切な評価活動を行い、一人一人の課題に沿った指導が今後とも不可欠である。



(4) その他

- 国語 A・B とも平均未満の児童は 29.3% であり、昨年度より微増した。中間層の更なる引き上げが継続的な課題となっている。そのため、概ね満足できる状態にない生徒に対する指導・支援を講じる準備を常にしておくことが求められる。

2 課題が見られた問題と指導の改善事項

(1) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項

①語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う

＜指導事項・伝/国1年(1)イ(ウ)＞A[8]三エ

(正答率 30.7%・全国 29.2%)

- ・「せきを切る」という言葉になじみがないために誤答となっていることが考えられる。4つの言葉は、単独では正しい言葉であるため、意味や用法を正しく捉え、文脈に即して適切に使ったり、生徒の実態に応じて語源を理解させたりすることも必要である。
- ・語彙を豊かにするためには、辞書などを用いて確認するだけでなく、複数の語句と比較しながらもっともふさわしい表現を検討するなどし、実際に使用場面を設定することが大切である。具体的な指導として、例えば、
ア 気になった語句をノートに書き留め、その語句を使った短文を作ったり、話や文章の中で使ったりする。
イ 文学的な文章の学習で、登場人物の人物像などを四字熟語や慣用句を用いて表す。

等が考えられる。過年度の授業アイディア例（平成21、24、26、29年度）を参考に実践を行うことが求められる。

②文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く

＜指導事項・伝/国2年(1)イ(ウ)＞A[8]四2

(正答率 20.1%・全国 22.3%)

- ・文の中における主語を捉えたり、主語を明示しながら適切に表現したりすることに引き続き課題があると考えられる。

〈誤答例〉

誤答文	誤答の理由	反応率
・親友の勇気ある行動に心を打たれた。 ・映画の最後のシーンに心を打たれた。	主語が抜けている	66.0%

- ・文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に伝わるようになっているかを常に吟味するように指導することが大切である。
- ・実際の指導に当たっては、平成21年授業アイディア例「推敲の観点に基づいて、推敲の仕方を身に付けることができるようにする。」も参考にしながら、単元の構想づくりを行うことが大切である。

三 次のアからエの文では、()の中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つ選びなさい。

ア 立場の異なる両者の主張は(1) 臨機応変 (2) 終始一貫 (3) 先手必勝 (4) 共存共栄として変わらず、最後まで結論が出なかった。	イ 魚の中には群れを作って泳ぐ(1) 習性 (2) 修正 (3) 集成 (4) 終成をもつものがある。	ウ 先生が私たちに大切なことを(1) 申し上げた (2) 申しした (3) お言いました (4) おっしゃった。	エ 彼は(1) 水気 (2) せき (3) 紙 (4) くつを切ったように話し始めた。
--	---	--	---

オ 意見の折り合いを(1) たてる (2) かける (3) つける (4) なる。

カ わたしが健康になったのは、(1) ひとえに (2) ほのかに (3) いちずに (4) むやみに 母のおかげです。

キ 姉はみんなと一緒に運動することが好きだ。(1) もしくは (2) いわば (3) 要するに (4) 一方、妹は一人で本を読むことが好きだ。

四 次の各問いに答えなさい。

1 次の言葉の意味として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。	心を打たれる
2 「心を打たれた」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰(何)」のどのようなことに「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。	2 遠慮する 2 感動する 3 一つのことに集中する 4 あれこれと心配する

(2) 書くこと（読むこと）

①目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く。

＜指導事項・書くこと2年ウ/読むこと1年イ＞ B **2** 二 （正答率 12.0%・全国 13.3%）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「宅配便で届いた段ボール箱は、天地無用だから、逆さまにしても大丈夫だ」
 この言い方が気になるあなた、受け取った荷物は大丈夫でしょうか？
 「天地無用」という言葉の意味について「国語に関する世論調査」で尋ねたところ、約3割の人が「上下を気にしないでよい」という意味だと回答しました。

では、「天地無用」とは本来どのような意味か、辞書で調べてみましょう。

『広辞苑 第6版』（平成20年・岩波書店）
 てんちーむよう 「天地無用」 運送する荷物の外装などに記す語で、この荷物を取り扱うのに、上下を逆にしてはいけないという意。

『日本国語大辞典 第2版』（平成12～14年・小学館）
 てんちーむよう 「天地無用」 荷物、貨物などの包装の外側に記す語で、破損の恐れがあるため上下をさかさまにして取り扱ってはいけないという意味の注意。

〈中略〉

では、「天地無用」を「上下を気にしないでよい」という意味で受け取る人が多いのは、どのような理由があるのでしょうか。その前提として、「無用」の意味を調べてみましょう。

①まず、必要な情報は、どこにあるのかを探す。
 ※「このように」「また」などを段落の最初の言葉が参考になる。

②「目的に応じて」＝「誤った意味で受け取る人が多い理由」となる部分を探し出す。

③「無用」という言葉についてと、言葉の省略についての2点が必要な情報である。それらを要約して文にする。

「天地無用」という言葉は、いつも荷物を取り扱っている人や、意味を知って目にした場合には解釈が難しい表現です。「国語に関する世論調査」で人を合わせると4割近いという結果です。

トラブルを避けるため、今後は分かりやすく言い換えたり、表示を工夫する必要があります。

三 この文章を読んで、「天地無用」という言葉を見たときに誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書きなさい。
 なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

・この文章では、「天地無用」を誤った意味で受け取る人が多い理由について、複数の段落を使い、大きく二つ述べている。そのような文章の構成や展開に着目し、目的に応じて文章を読み、内容を的確に捉えてまとめる力が求められる。

〈誤答例〉

誤答文	誤答の理由	反応率
「無用」は「してはならないこと」という意味だが、現在は、「禁止」という言葉を用いたり、丁寧に書かれたりするようになった。そのために、「してはならないこと」という意味での使い方があること自体、分かりにくくなっているから。	必要な情報の2つのうち、1つしか含まれていない。	40.8%
「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由は「無用」という言葉を「役に立たないこと。いらないこと」や「用事が無いこと」という意味に取ってしまったから。	文章中の表現を用いているが、目的に応じて文章を読み、必要な内容を捉えることができていない。	40.0%

- ・目的に応じて文章の内容を的確に読むためには、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するように指導することが必要である。
- ・指導に当たっては、平成23・24年度授業アイデア例も参考に、単元を構築し実践することなどが重要である。

3 指導改善のポイント

(1) 適切な言語活動とその充実が図られる単元設定を行う

①付けたい力を付けるにふさわしい言語活動であるか

国語科の言語活動は、生徒の目的意識や必要感をかき立て、単元で一貫した問題解決を目指して位置付けるものである。また、国語科では、言語活動を通して付けるべき力を生徒が身に付けられるようにするため、付けたい力及び指導事項を明確にして言語活動を設定することが重要となる。

②多様な図書資料等の有効な活用を行っているか

目的に応じた言語能力を身に付けさせるためには、多様な図書資料等を活用する言語活動を行うことが必要である。また、考えを深めたり広げたりするためにも情報を比較・関連付けて考える指導をすることも必要である。

③既習事項（または知識・技能）を活用する言語活動であるか、また知識・技能の確実な定着を図っているか

知識・技能や言語能力は一度の指導で身に付くものでなく、繰り返し指導していくことで習熟するものである。そのため、その既習と未習の別や系統性等を把握したうえで意図的・計画的に指導していくことが重要である。

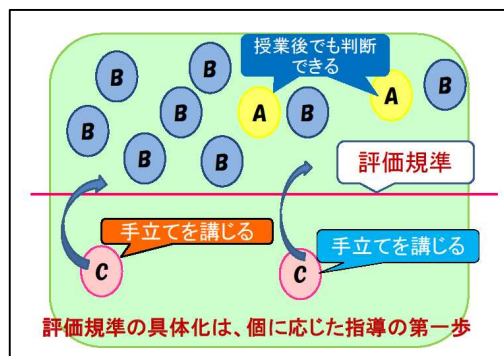
(2) 主体的な学びを促す「めあて」等の設定と指導に生かすことができる「より具体的な評価規準」を設定する

①適切な「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の設定があるか、また、国語の学習として適切な「振り返り」となっているか

1時間の授業において、学習の見通しを持ち、自分の学びをメタ認知することが重要である。そのために適切な「めあて」～「振り返り」の設定が必要となる。また、「振り返り」も言葉による見方・考え方の深まりが見え、今後の学習の展望が述べられるものであることが望ましい。

②指導事項・指導領域・評価の焦点化が見られるか。またそれらに基づいた「B おおむね満足できる」状況が具体的に想定され、評価の場面や方法は適切であるか、「C 努力を要する状況」の生徒への指導や支援は行われているか。

評価規準の具体化をすることで、生徒をすばやく見取り、その時間内あるいは事後に努力を要する状況の生徒に対する指導・支援を行うことにつながる。個に応じた指導のためには、評価規準の具体化は欠かせず、それに基づいた具体的な指導・支援を指導案等に位置付けるなど、事前の準備等も重要となる。



(3) その他、国語科授業で取り組むべきこと

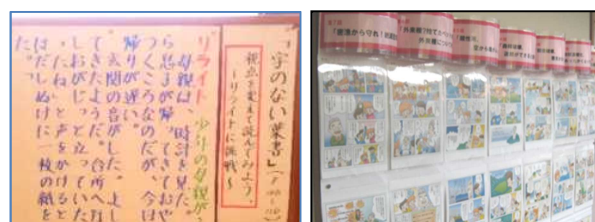
①必要な言葉を使用し、言葉で思考を深めること

どのように思考するのかをきちんと理解させるためにも、既習の語句（例えば「引

用」「要旨」「要点」など）を理解させて意図的に使用させる必要がある。

②言語活動の成果物を掲示や展示

言語活動の成果物を互いに見ることで、考え方が広がる契機にもなる。また、言語活動に関連する資料の紹介も学習の環境を整える意味で有効である。



③特に活用に課題がある場合の取組

活用に課題がある場合の工夫として、条件に即応して記述しなければならない場面を設定することがある。時間・字数・文章の形態や種類・文体・対象・使用語彙・要約・引用・例示・表現技法・構成等、条件を踏まえる必然性のある活動を設定する。

(4) 学校全体で取り組むべきこと

①漢字や語句、文法、表現技法等の習得

漢字や語句、文法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠である。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。

②全校一斉読書や各教科における学校図書館の活用

様々な力を下支えするものとして、活字に親しませることが必要である。多様な図書資料を自ら手を伸ばすように指導し、不読者を減らす取組をしなければならない。司書教諭や学校司書と協力し、バランスのよい読書指導をすることが重要である。

質問紙 「この1か月の間に本を何冊くらい読みましたか。」（単位は%）※県調査質問紙による

	0冊	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~20	21~30	31以上	その他
県(30年度)	17.4	39.4	19.5	8.8	3.9	4.1	3.1	1.4	2.1	0.3
県(29年度)	15.9	38.9	20.4	9.2	4.1	4.5	3.6	1.1	1.9	0.3
県(28年度)	21.1	38.1	18.5	8.2	3.6	3.9	3.0	1.1	2.1	0.2

生徒質問紙「(15)学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，読書をしますか」と教科の正答率のクロス集計では、右のようになっている。日に10分以上の読書と国語の力は一定の相関が見られる。読書習慣を身に付けさせる取組を学校全体で行うことは有効な手段の一つであると考えられる。

		国語A	国語B
1	2時間以上	78.2	64.4
2	1時間以上，2時間より少ない	78.0	64.1
3	30分以上，1時間より少ない	79.3	65.1
4	10分以上，30分より少ない	78.8	64.4
5	10分より少ない	76.5	61.4
6	全くしない	74.6	58.2

また、学年が上がるに従って、書籍だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる。そのために、国語科だけでなく、各教科や領域において、図書館の利活用の推進をしなければならない。例えば、毎日その日の新聞を生徒の見えるところに掲示して、情報が目に入っていくようにしたり、必要な情報がすぐに取り出せるように教室に辞書を配置したりして、適切な言語環境を作ることが、その第一歩になる。

